

平成30年度第3回 習志野市子ども・子育て会議 会議録

【開催日時・場所】

平成31年2月6日（水） 17時00分～18時40分 市庁舎5階委員会室

【出席者】

（委員）※50音順

飯島委員、飯塚委員、伊藤委員、稲垣委員、大塚委員、栢委員、倉信委員、小西委員、佐々木委員、高橋委員、中村委員、横澤委員、米本委員

（市）

こども部 : 小澤部長、小平次長、江口副技監

こども保育課 : 齊藤課長、青野主幹、秋田係長、石川係長、松田主査

子育て支援課 : 相澤課長、鈴木主幹

児童育成課 : 芹澤課長、北澤係長

健康支援課 : 山口主幹、大久保係長

ひまわり発達相談センター : 北田所長

（事務局）

こども政策課 : 小野寺課長、松岡係長、三代川係長、伊藤（崇）主任主事、伊藤（幹）主任主事、高地主事

（子ども・子育て支援事業計画策定業務受託者）

ナレッジ・マネジメント・ケア研究所 : 關澤

【傍聴人数】

1人

【次第】

1. 開会

2. 議題

（1）習志野市子育て支援に関するニーズ調査について（協議）

3. その他

4. 閉会

【配布資料】

・資料1：調査の実施について

・資料2-1：新旧対照表（就学前用）

・資料2-2：新旧対照表（小学生用）

・資料3：習志野市子育て支援に関するニーズ調査 就学前（調査票案）

・資料4：習志野市子育て支援に関するニーズ調査 小学生（調査票案）

・資料5：教育・保育事業サービス一覧及び幼児教育・保育無償化（一部無償化）の具体的なイメージ

1. 開会

2. 議題

(1) 習志野市子育て支援に関するニーズ調査について（協議）

<小野寺こども政策課長>

資料1に基づき、調査の実施について説明。

<高橋委員>

どのくらいの日数を調査実施の期間にするのか。

<小野寺こども政策課長>

アンケートの印刷と封入作業後に調査実施となる。回答期限を長く設定すると回収率が落ちることから、発送から2週間程度に区切りたい。集まったものを、順次集計・分析し、報告書完成は5月から6月となる予定である。

<小野寺こども政策課長>

資料2-1、2-2に基づき、新旧対照表について説明。

資料3に基づき、習志野市子育て支援に関するニーズ調査（就学前）について説明。

<米本委員>

調査票の回答者を問う設問については、体調等で答えられない人もいると思うので、回答者の幅を広げたことは良かったと思う。

子どもの子育て環境について問う設問について、相談先の選択肢に「保育士や幼稚園教諭」とあるが、保護者が園に相談に来た時、健康や食べ物については栄養士や看護師が相談するに依ることがある。見学に来る方々も、食事や健康に関心が高い。相談する相手の選択肢に「看護師・栄養士」を入れたらどうか。

<稲垣会長>

調査票作成時にも議論があった。保育士・幼稚園教諭は所属する場所があるのに対し、看護師や栄養士は所属が様々で、保健所に所属する方も保育所、認定こども園に所属する方もいる。所属場所との相関がわかりにくく、専門職を列挙すれば選択肢の数が増えるだけにもなるため、子育てをしている保護者たちが出会うことのできそうなものに絞って整理した経緯がある。どのような書き方が良いか。

<大塚委員>

今のままなら、「その他」に積極的に書いてもらう方法がある。「保育士や幼稚園教諭」のところを、「関係者」とするのは堅いと思うが、「保育園や幼稚園の先生」としても限定されてしまうだろうか。また、「園にいる誰でも」という形はどうか。病院とも捉えられるが、「かかりつけの医師・看護師」とす

れば、看護師に相談していることはわかるのではないか。

<伊藤委員>

私が園の看護師に相談している場合は、「幼稚園教諭等」となっていればそれを選択する。

<中村委員>

同じように、「保育士・幼稚園教諭等」となっていればそれを選択する。

<横澤委員>

皆さんの話聞いて同じように考えた。

<稲垣会長>

「等」を入れると、比較的相互理解が図りやすい。

<小野寺こども政策課長>

貴重な意見として受け止める。

<横澤委員>

調査票は見やすい。ページ数が多いため、保護者は躊躇すると思うが、開いてみれば回答できると思う。10分以上かかると思うがよく書けている。

四角に数字を入れて回答する部分について、四角の太さに相違がある。統一した方がよい。

通わせている認可保育所等は市立と私立のどちらかという設問があるが、何を意図した質問か。子どもを通わせるにあたり、公立か私立かの優先順位は高くない。家からほぼ同じ距離に公立と私立の保育所がある場合もあるが、少ないケースだと思う。習志野市内全体の市立と私立の人数と、アンケート回答者の市立と私立の人数が、極端に振れていないかどうかは見られると思うが、それは意図したところではないであろう。保護者は、市立か私立かで決めていないと思う。

教育・保育の事業を利用していない理由を問う設問で、「利用したいが経済的な理由で事業を利用できない」という選択肢がある。該当する人はどういう人達か。何を意図した選択肢なのか。教育や保育の事業は、お金があるかないかという視点だと、ない人がサービスを受けるのではないか。ある人は保育所や施設に通わせるのではなく、家庭教師を雇うという人もいるかもしれない。

設問中に、「巻末の資料をご覧ください」とあるが、巻末にない。どういったものを配布するのか。

「わからない」という選択肢がないことが、最も気になった。保護者が考慮していないことについて聞かれると、答えにくいと思う。

<稲垣会長>

書式の統一については事務局でお願いしたい。

市立と私立のどちらに通わせているかを問う質問は、単に割合を見るだけでなく、他の項目と関連させたときに、公立か私立かによって回答傾向があるのかを見るためである。市立も私立も同じ教育・保

育サービスであることから公平を図らなければならないが、特徴的なところは特徴的でよい。保護者は市立と私立を自由に選べない。保育園や認定こども園を選ぶ時は、メニューや預かり時間、教育内容で選ぶ。保育園や認定こども園の場合、認定された後に優先順位を考慮することから、必ずしも行きたいところに行けるわけではない。数を比べるだけでなく、子どもたちに不公平にならないサービス提供がされているかを見る必要であることから、その確認に数値を使う。

経済的事由は、保育料の一部無償化によっても変わる。負担金が払えないために子どもを預けられない世帯もある。今後の無償化も完全に無料ではないため、どのような支援や配慮が必要かを考えなくてはならない。就労が安定しない人、保育園に入れず認可外に入ったために保育料で収入がほとんどなくなる人等、様々な人がいることから、経済的な要件を確認することが必要である。

「答えたくない」や「わからない」という選択肢は作っていない。選択肢を多くすると集計作業が大変になる。その他に「わからない」「まだ決めてない」と書く方法もあるが、そのような人達の声ははっきりと区別して集計したいのであれば、選択肢を作ることになる。どちらが回答しやすいか。

<横澤委員>

私の子どもが今度小学校に行くが、今の時期になってわかったことが多く、驚いている。そのように感じている人は多いのではないか。

<小西委員>

調査実施時期が3月であることから、小学校に入学する子どもを持つ保護者は、今後のことについてある程度決めているため、「わからない」という選択肢は考えにくいと思う。但し、乳児のいる家庭では、「わからない」という選択肢もあると思う。

<小野寺こども政策課長>

全体的な書式の統一については、対応したい。

市立と私立のどちらに通わせているかを問う設問については、利用希望を問うものではない。市立と私立のサービス状況について満足度の実態把握が目的である。

就学前の子どもが小学生になったときの放課後の過ごし方を問う設問については、未来のことを尋ねている。2月1日時点で幼稚園の年長又は保育所の5歳児保育に通っている子どもは、2ヶ月後には小学生になることから、実感しているだろう。しかし、生まれたばかりの子どもを持つ保護者については、「わからない」という選択肢があってもよいと思う。検討の材料にさせていただきたい。

巻末資料については、当日資料として配布したものである。サービス内容を一覧として取りまとめたもので、これを見ながら回答してもらいたいと考えている。

<横澤委員>

了解した。子どもの生年を書く欄があるので、「わからない」の選択肢があれば、ある程度実態が特定できると思う。

<大塚委員>

長期休業期間中の放課後児童会の利用を問う設問については、「現在お持ちのイメージでお答えください」とあるため、「わからない」という選択肢がないのだと思う。「わからない」を選択肢に入れるのであれば、「現在お持ちのイメージでお答えください」は消してもよいと思う。

<飯島委員>

「□内に数字を記入」とあるが、「□（しかく）」は「口（くち）」に見えてしまう。長方形にしてはどうか。また、「あてはまるものに○」とあるが、これでは文章全て囲んでしまう方もいる。「あてはまる番号に○」としてはどうか。

<稲垣会長>

大変的確な指摘である。見直していただきたい。

<小西委員>

就労状況を問う設問の「フルタイムで就労している」という項目について、「週に5日、1日8時間程度の就労」との注意書きがある。泊まりを含んだシフト勤務をしている場合は、どれに該当するのか迷う人がいるのではないか。「フルタイムで就労している」を選んでほしいのであれば、注意書きを加えるとわかりやすい。

<飯塚委員>

今回の調査の抽出量は、全体を把握するのに十分な量なのか伺いたい。

<稲垣会長>

最近の調査の傾向として、必ずしも全数調査をせず、ある程度の割合を抽出しても結果は変わらないようになってきている。ただし、今回の調査で注意しなければならないのは、中学校区によって少子化や高齢化の割合が違う場合である。例えば、高齢化率が著しく高いところに子どもの調査をしてもニーズは極めて低く出てしまう。この場合、少数の人達の意見が反映されないことになってしまうため、そういう地区にはその状況を踏まえた上で変数をかけ、調整する。以前この調査に関して、中学校区で行う根拠について問われた。中学校が統廃合をすれば、現在よりも中学校区が大きくなる恐れがある。その場合には中学校区を割って、統計上の整合性に合わせて区割りをし直すことになるだろう。今回の習志野市のニーズ調査について、抽出率や対象は妥当である。

<中村委員>

子育てを支援する事業について問う設問は、0歳から3歳の子どもを持つ保護者に聞きたい項目なのか。私の場合、子どもが幼稚園に入園する前まではよく利用していたが、入園後はほぼ利用しなくなった。私の周りの保護者には、3歳から4歳後半くらいになると、子どもが室内で暴れる等の理由から、行きたいけれど利用していない方が多かった。利用したいが利用していない方や、以前は利用していたが今は年齢的に控えているという方もいる。そのようなことは関係なく、今現在0歳から3歳で利用しているかどうかの質問なのか。

<稲垣会長>

子どもの発達段階によって、人がたくさんいるところに行きやすい時と行きにくい時がある。これらのセンターやサロンでも、対象者を指定したメニューを持っているものは行きやすく、プログラムに対象年齢を入れているのは、そういったニーズに対する配慮である。調査票を作る際に抜けていた観点なので検討したい。

<小野寺こども政策課長>

「つどいの広場きらっ子ルーム」は大久保と谷津があり、対象にしている乳幼児というのは0歳から3歳児である。

この問いは、3つの子育て支援施設について、就学前の保護者は知っているかどうかの傾向を知りたい。以前利用していた方は、施設を知っており利用もしていたという実態があるが、「利用していますか」の問いには「利用していない」と回答がされると考えている。

<稲垣会長>

もう少し書きやすくなるような工夫をしていただきたい。

<飯島委員>

育児休業規定について、私の認識では、大企業と中小企業で努力義務だったと思う。そもそも育児休業規定を作っていない会社に勤めている場合は、育児休業を「取得していない」に含まれてよいのか。

<稲垣会長>

ここでは、取得したいができないということを保育サービスの有無との相関で聞いており、事業所の就労環境との相関で聞いているわけではない。この調査で我々が知りたいのは、就学前のサービスを充実することにより、安心して子どもと向かい合う時間を作れるかどうかということである。就労状況において、柔軟なワークライフバランスを取れる雇用の保証がされているかを確認する質問ではない。

<飯島委員>

育児休業の規定がないところに勤めている方は「取得してない」に含まれ、そう答えれば良いという認識ならそれでよい。

<小野寺こども政策課長>

現に取得しているかどうかを把握したいわけではない。

<稲垣会長>

事務局の説明に10分から15分かかったことを考えると、保護者が10分程度で回答するのは難しい。調査票の表の文章は契約であり、プライバシーを伺うにあたって、目的や、所要時間等の負担について説明しなければならない。我々のように慣れていても、聞き取るのに時間がかかっている。初

めてこれを見た方は、インターネット等で調べたりすると30分かかる可能性もある。30分程度かかると書いた方がよい。

<小野寺こども政策課長>

資料4に基づき、習志野市子育て支援に関するニーズ調査（小学生）について説明。

<稲垣会長>

子育て環境を問う設問について、相談先の選択肢に「学校の教員」とあるが、小学校には養護教諭である保健室の先生がいる。

<大塚委員>

スクールカウンセラーもいる。

<稲垣会長>

教員であっても、クラスにいる先生やそうでない先生、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等もいる。ここはどう表現すると実態に合うか。

<倉信委員>

スクールカウンセラーの配置について、習志野市の場合、中学校は全学校だが、小学校は3分の1程度である。また、頻度も2週間に1回程度である。スクールソーシャルワーカーの配置については、習志野市と八千代市をあわせて1人である。配置、頻度ともに少ないことから、設問としてはこのままでよいと思う。

<稲垣会長>

「等」とした方がよいと考える。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは必要な存在なので、是非整備をしていただきたい。

スクールカウンセラーが、子どもが本音を語るができるような面接をし、スクールソーシャルワーカーが、先生たちが保護者と直面しないよう警察や弁護士との調整をしてくれれば、学校の先生や教育委員会が矢面に立って対応する必要もなく、スムーズに守ることができる。児童相談所や学校の個々の問題ではなく、総体的な体制の問題であり、習志野市でも起きないことではない。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置にも理解をいただきたい。

調査をしても、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを見たことも聞いたこともない保護者が多く、ニーズとして挙がりにくいことから、学校に配置してもらえないこと自体がわからないのである。保育園、幼稚園、こども園でも、保育ソーシャルワークや幼児教育のソーシャルワーク等、家庭の相談に乗ってくれる人がいれば、先生や保育士たちの負担もかなり軽減されると思う。

<飯塚委員>

小学校での放課後の過ごし方について問う設問について伺いたい。最近民間学童も出てきており、「ア

フタースクール」とも呼ばれている。居場所を聞くのであれば、これも選択肢としてあってもよいのではないか。「習い事」とはイメージが異なる。「その他」に書かせても良いが、どの程度の数があるか気になっている。

<稲垣会長>

子ども食堂は、お金のない子どもが食べるというラベルが貼られてきていることから、関係者の間では「みんなの食堂」や「みんなの居場所」という言い方にしようかという動きがある。家族がいなくて話し相手がいらない、勉強をしたいが落ち着いて勉強できる場所がない、見てくれる人がいない等の子や、孤食になってしまいそうな子がいる。このような子が、誰かと一緒に食事をするところを民間で作り始めており、厚生労働省や文部科学省もバックアップを始めている。その辺りをどう把握するかという提案だと思う。「その他の居場所」のような選択肢でもよいだろうか。

<佐々木委員>

今の話では、「その他の居場所」は、「その他」に入るのではないか。

<稲垣会長>

「居場所」という言葉を使ってみたらどうか。飯塚委員の発言で、大事な言葉だと思った。

<佐々木委員>

私は回答に10分程度かかった。最初の部分での何分程度という記載は、大まかな指針となるもので良いと思う。10分から20分とすると、その間で収まらなくてはならないような気がするので、「15分くらい」とするのが良いのではないか。

宛名のお子さんの生年月を問う設問が、和暦になっているが、西暦と和暦を選べた方が書きやすいのではないか。

<稲垣会長>

他の調査との整合性もあるが、西暦を入れると答えやすいと考える。

<栢委員>

子どもやその保護者の実態を掴むに当たり、子育てについて相談する相手として、インターネット等で見知らぬ方に相談する方も多くいると思う。身近な人には話しにくいいため、インターネット等で回答してもらう方が良いという話も聞く。そういった選択肢が必要かどうか、少し悩んだ。

多くの人がスマートフォン等を持っており、ソーシャルネットワークサービス等で情報を持っている。近隣市の情報を得て、利用している方も多くいる。施設を利用しないと答えた方が子育てに無関心な訳ではない。私たちの事業も、今までは公民館にチラシを置けば取ってくれた。しかし今は、データで欲しい、インターネット等に掲載してほしいとの要望が多い。このような実態をどう掴むのか。この調査では難しいかもしれないが、この実態を理解し、市の取り組みについても発信すれば、より多くの人の手元に届くと思う。

<稲垣会長>

習志野市民が船橋市のサービスを利用するように、サービスの利用には市町村の行政区とは異なる圏域というものがある。広域のサービス計画の時には、圏域設定する場合もある。このことについて、周辺の市町村と協議する必要性があるという示唆として、周辺の市町村のサービスを利用している選択肢を入れることも必要かもしれないが、今回の調査では難しい。今後の参考にしたい。

ソーシャルネットワークサービスは、新しいツールとしてどのように捉え、取り扱うのか、様々なところで慎重に考えなければならない。受け手にとって確実に安心安全な情報である事を伝えながら、不適切な情報と混同されないようにするため、どのような工夫をしなければならないのかという配慮も必要である。ソーシャルネットワークサービスはメリットとリスクが表裏一体である。調査全体を見て、指摘されたソーシャルネットワークサービスを項目として入れた方が良いかどうか検討したい。

本日委員からいただいた意見をもとに、もう一度調査票全体をチェックさせていただきたい。

<高橋委員>

かなり項目を削除でき、すっきりして回答しやすい。細かい説明があり、とても分かりやすいと感じた。また、この場で当事者からの様々な意見があり、見直さなくてはならない部分もあると実感した。

放課後等デイサービスは多く行われている。近くにデイサービスがあり、学校が終わったところに迎えに行き、デイサービスを受け、親が帰ってくる頃に送って行く。たいへん良いシステムだと感じている。市内にどのくらい施設があり、どの程度の人数が利用しているのか。

<稲垣会長>

放課後デイサービスの施設数・利用人数については、回答が難しければ次回会議でお願いします。

→※放課後等デイサービス 施設数：16件 利用実人数：262人（平成29年度実績）

<稲垣会長>

福祉系のサービスの大きな区分は高齢・障害・児童だが、統合され包括化されており、法律によって異なっていた言葉が一緒になってきている。デイサービスは高齢者のサービスという印象があったが、その日の短時間利用できるサービスのことを「デイ」という。休息のために宿泊を伴う場合は「ショートステイ」という言い方をする。

回答時間の長さについては、就学前と小学生で調査票の量が異なるため、長短が出る。就学前の方がサービスメニューも多く、確認しなければならないところも多い。特に、国が要求している量的な部分も丁寧に確認しなければならず質問項目が細かいことから、6ページ程度多くなっており時間がかかるようになっている。

<横澤委員>

子どもが病気の際の対応について問う設問は、非常に重要な項目だと思うが、回答者が覚えていない可能性が高い。大体の日数で構わないと思うので、何らかのフォローを記載した方がよい。

<稲垣会長>

思い当たる、記憶にある等、書きやすいように誘いの一言を入れたらどうかという提案である。曖昧な所は曖昧で構わない、該当しない時にはわからないと書く等、付け加えた方が回答しやすい設問の質問文を配慮することを、全体を通しての見直し課題とさせていただきたい。

この委員会が終わったあとに修正してほしい旨の連絡は、いつ頃まで可能か。

<小野寺こども政策課長>

改めてメール等で連絡させていただく。

<飯島委員>

それぞれの鏡文について、「御」の字は固くなってしまうため、ひらがなで良いのではないか。

<小野寺こども政策課長>

習志野市の行政文書は漢字を使うこととなっている。

<稲垣会長>

鏡文は契約なので、「終わり次第調査票を廃棄します」の一文が必要となる。加えていただきたい。

委員各位から指摘された、文言を分かりやすくする、回答しやすくする、レイアウトを整えるべきは整える等について対応させていただきたい。

3. その他

<小野寺こども政策課長>

委員各位の委嘱期間が本年6月までとなっている。子どもの卒園や人事異動等により、任期途中で関係団体の所属でなくなる場合については、委員の変更が起こる。具体的な手続きは、委員より事前に辞退届けを事務局に提出いただき、その後事務局から関係団体宛に新しい委員の推薦のお願いをすることになる。該当する委員は、事務局まで申し出てほしい。

4. 閉会

【所属課】

こども政策課

電話番号：047-451-1151（内線 442、433）

FAX 番号：047-453-5512